

正誤表（達成状況評価）

70：愛媛大学

No.	頁数	誤	正	修正事由
01	p.44	（小項目2－2－1の総括16行目） 共同利用件数は18,356件となり、第2期中期目標期間最終年度の16,204件から約13.3%増加した。	共同利用件数は <u>19,430件</u> となり、第2期中期目標期間最終年度の16,204件から約 <u>19.9%</u> 増加した。	確認事項への回答説明及び資料の追加提出に伴い、数値に齟齬が生じたため。
02	p.45	（実施状況（中期計画2－2－1－1）7行目） 共同利用件数は18,356件となり、第2期中期目標期間最終年度の16,204件から約13.3%増加した。	（実施状況（中期計画2－2－1－1）7行目） 共同利用件数は <u>19,430件</u> となり、第2期中期目標期間最終年度の16,204件から約 <u>19.9%</u> 増加した。	確認事項への回答説明及び資料の追加提出に伴い、数値に齟齬が生じたため。
03	p.45	（小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画2－2－1－1）5行目） 共同利用件数は18,356件となり、第2期中期目標期間最終年度の16,204件から約13.3%増加した。	（小項目の達成に向けて得られた実績（中期計画2－2－1－1）5行目） 共同利用件数は <u>19,430件</u> となり、第2期中期目標期間最終年度の16,204件から約 <u>19.9%</u> 増加した。	確認事項への回答説明及び資料の追加提出に伴い、数値に齟齬が生じたため。
04	p.47	（実施状況（中期計画2－2－1－2）の別添資料） 別添資料2－2－5 国立大学法人愛媛大学職員報奨金規程（令和2年2月最終改正）	（実施状況（中期計画2－2－1－2）の別添資料） 別添資料2－2－5 国立大学法人愛媛大学職員報奨金規程（ <u>平成29年</u> 2月最終改正）	誤字があったため。

正誤表（現況分析（教育））

70：愛媛大学

No.	現況分析単位 (学部・研究科等)	頁数	誤	正	修正事由
01	07_理学部	p.14	このキャリアデザインは2015年度から内容や告知法を改訂し、	このキャリアデザインは2015年度から内容や告知方法を改訂し、	脱字があったため。
02	09_医学系研究科	p.11	同制度では、採用後最長5年間を任期付きの育成機関とし、最初の3年間に	同制度では、採用後最長5年間を任期付きの育成期間とし、最初の3年間に	誤字があったため。
03	13_農学研究科	p.13	本研究科の森林環境管理学リカレントコースでは、	本研究科の森林環境管理学サブコースでは、	誤字があったため。

正誤表（現況分析（研究））

70：愛媛大学

No.	現況分析単位 (学部・研究科等)	頁数	誤	正	修正事由
01	06_農学部、農学研究科	p.9	文部科学省の研究拠点形成事業（CCP:バイオ新領域を拓く熱帯性環境微生物の国際研究拠点形成；2014年～2018年度）に参加し、海外研究者の受入を通じて熱帯性微生物の特性を活かしたバイオプロセスの開発研究を 2019 年 2 月 19 日～3 月 18 日の期間実施した	<u>日本学術振興会</u> の研究拠点形成事業（CCP:バイオ新領域を拓く熱帯性環境微生物の国際研究拠点形成；2014年～2018年度）に参加し、海外研究者の受入を通じて熱帯性微生物の特性を活かしたバイオプロセスの開発研究を 2019 年 2 月 19 日～3 月 18 日の期間実施した	事実誤認があったため。
02	07_連合農学研究科	p.8	文部科学省の研究拠点形成事業（CCP:バイオ新領域を拓く熱帯性環境微生物の国際研究拠点形成；2014～2018年度）に参加し、海外研究者の受入を通じて熱帯性微生物の特性を活かしたバイオプロセスの開発研究を 2019 年 2 月 19 日～3 月 18 日の期間実施した	<u>日本学術振興会</u> の研究拠点形成事業（CCP:バイオ新領域を拓く熱帯性環境微生物の国際研究拠点形成；2014年～2018年度）に参加し、海外研究者の受入を通じて熱帯性微生物の特性を活かしたバイオプロセスの開発研究を 2019 年 2 月 19 日～3 月 18 日の期間実施した	事実誤認があったため。